

# 常なる磐

つねなる いわ

令和2年7月31日(金)号

## ◇ 筆記用具考察

今日で7月も終わり。1学期も、残すところ、あと一週間となった。新型コロナウイルス感染拡大の心配は尽きないが、子供たちも、職員も、よく頑張っている。

小学校の学びはとてもよい。

担任の先生から見れば全く普通のことかもしれないが、中学校ばかり勤務してきた自分にとっては、その景色が新鮮で、とてもいいなあと感じることがある。

鉛筆である。○をつけたり、線を引いたりするのは赤鉛筆。実によい。

中学生が学習時に使用する主な筆記用具はノック式ペンシル。いわゆる「シャープ」「シャーペン」だ。○付けをするのは赤インクのボールペンやサインペン。

では、なぜ、小学生にとって鉛筆が適しているのか。理由はいくつもある。

文字を書くのに大切なのは筆圧である。

止めたり、払ったり、はねたり、ぐいと伸ばしたり、点を打ったり…

文字を書くには、様々な技術的要素が必要であるが、これを可能とするのが適切な筆圧であり、筆圧を感じながら文字を書くには、鉛筆が最良なのである。

また、持ち手の部分の材質がよい。ほとんどの鉛筆が、適度な硬さと柔らかさを兼ね備えもつ木材である。長く使用する際は、痛みや疲れを和らげる。

問題は、鉛筆の持ち方である。正しい持ち方が疲れや痛みを軽減し、適度な筆圧をかける。つまり、正しい持ち方が、手に余分な負担を掛けず、美しい文字を書くことを可能にするのだ。

持ち方は気にせず、文字が書ければそれでよい…というものではないのである。

教室の全面。黒板の上方には、子供たちからよく見えるように、どの教室にも「正しい鉛筆の持ち方」の掲示が掲げられている。いつでも確認できる環境にある。

それでは実際の持ち方はいかがでしょうかと云えば、改善の余地のある児童もいる。

「鉛筆を持ってみて」と改めて鉛筆を持たせると、これがちゃんとできるのだ。

『鉄は、熱いうちに打て』

熱があるうちの方が成形も可能で、鉄を鍛えられるということ。

人も同じ。今が大事なのである。